

Stiefel=Whitney類の局所公式について

塩崎 謙

April 1, 2025

Abstract

McLaughlin[1]のメモ.

1 準備

$P \rightarrow M$ を主 $SO(n)$ 束とする. $\{U_i\}_i$ を M のgood coveringとする. 変換関数を

$$g_{ij}(x) \in SO(n), \quad x \in U_{ij}, \quad (1.1)$$

とする. コサイクル条件は

$$g_{ij}(x)g_{jk}(x) = g_{ik}(x), \quad x \in U_{ijk}. \quad (1.2)$$

$SO(n)$ からStiefel多様体 $SO(n)/SO(k-1)$ への射影を

$$g \mapsto \bar{g} \quad (1.3)$$

と書く. 左作用

$$g \cdot \bar{h} = \overline{gh} \quad (1.4)$$

が自然に定まる. k 次のSW類は

$$w_k(P) \in H^k(M, \mathbb{Z}_2) \quad (1.5)$$

に値を取る. $w_k(P)$ を与えるCechコサイクルを変換関数のデータから構成する [1].

$$H_p(SO(n)/SO(k-1), \mathbb{Z}_2) = \begin{cases} 0 & p = 1, \dots, k-2, \\ \mathbb{Z}_2 & p = k-1, \end{cases} \quad (1.6)$$

に注意する.

2 構成

$x \in U_{ij}$ に対して, パス

$$\tau_{ij}^1(x) : \Delta^1 = [0, 1] \rightarrow SO(n)/SO(k-1) \quad (2.1)$$

を

$$\tau_{ij}^1(x)|_{t=0} = \bar{e}, \quad \tau_{ij}^1(x)|_{t=1} = \bar{g}_{ij}(x), \quad (2.2)$$

なるように定める。マップ

$$\tau_{ij}^1 : \Delta^1 \times U_{ij} \rightarrow SO(n)/SO(k-1) \quad (2.3)$$

は連続になるように取ることができると仮定する。終点と始点が一致する2つのパスの接続を

$$\gamma_0 * \gamma_1, \quad (\gamma_0|_{t=1} = \gamma_1|_{t=0}), \quad (2.4)$$

と書く。(左から右に進む。) パス

$$V_{ijk}^1(x) := \tau_{ij}^1(x) * (g_{ij}(x) \cdot \tau_{jk}^1(x)) * (\tau_{ik}^1(x))^{-1}, \quad x \in U_{ijk}, \quad (2.5)$$

はコサイクル条件より閉経路である。実際、左から

$$\bar{e} \rightarrow \bar{g}_{ij}(x) \rightarrow \overline{g_{ij}(x)g_{jk}(x)} = \bar{g}_{ik}(x) \rightarrow \bar{e}. \quad (2.6)$$

2.1 $w_2(P)$

$k=2$ のとき,

$$H_1(SO(n), \mathbb{Z}_2) = \mathbb{Z}_2 \quad (2.7)$$

より, $V_{ijk}^1(x)$ は非自明なサイクルか, あるいは自明なサイクルである。非自明/自明は $x \in U_{ijk}$ の選び方に依存しないので, Čechコサイクル

$$z_{ijk}^2 := \begin{cases} 0 & (V_{ijk}^1 \text{が自明なサイクル}), \\ 1 & (V_{ijk}^1 \text{が非自明なサイクル}), \end{cases} \quad (2.8)$$

が定まる。 $w_2(P) = [z_{ijk}^2]$ とする。

$H_1(SO(n), \mathbb{Z}_2) = \mathbb{Z}_2$ であるので, パス $\tau_{ij}^1(x \in U_{ij}) : e \rightsquigarrow g_{ij}(x) \in SO(n)$ の取り方に \mathbb{Z}_2 の任意性があり, これがリフト $SO(n) \rightarrow \text{Spin}(n)$ の取り方に対応する。

2.2 $w_3(P)$

$k=3$ のときは, $V_{ijk}^1(x)$ は自明なサイクルであるので, $V_{ijk}^1(x)$ を境界とするような特異2単体 $\tau_{ijk}^2(x)$ が存在する。

$$\exists \tau_{ijk}^2(x), \quad \text{s.t.} \quad \partial \tau_{ijk}^2(x) = V_{ijk}^1(x). \quad (2.9)$$

マップ

$$\tau_{ijk}^2 : \Delta^2 \times U_{ijk} \rightarrow SO(n)/SO(2) \quad (2.10)$$

は連続になるように取ることができると仮定する。すると, 特異2単体の線形和

$$V_{ijkl}^2(x) = g_{ij}(x) \cdot \tau_{jkl}^2(x) + \tau_{ikl}^2(x) + \tau_{ijl}^2(x) + \tau_{ijk}^2(x), \quad x \in U_{ijkl}, \quad (2.11)$$

は2サイクルを定める。 $H_2(SO(n)/SO(2), \mathbb{Z}_2) = \mathbb{Z}_2$ より, Čech 3コサイクル

$$z_{ijkl}^3 := \begin{cases} 0 & (V_{ijkl}^2 \text{が自明なサイクル}), \\ 1 & (V_{ijkl}^2 \text{が非自明なサイクル}), \end{cases} \quad (2.12)$$

が定まる。 $w_3(P) = [z_{ijkl}^3]$ とする。

$k > 3$, つまり, w_4, w_4, \dots ,も同様にして構成される。

References

- [1] D. A. McLaughlin, *Local formulae for Stiefel-Whitney classes*, Manuscripta Math 89, 1–13 (1996).